

大阪錦繪新聞

第 四 号



世木おき蔵

ひよん

阪元石和 彫淺三良

其車夫へ天満まで十日天神橋通  
 元奥力町多人力車屋まで柴鳩  
 一行の明車は堤の客待小  
 日笠の午の年酒へ三十歳よ  
 迎き美婦人元西役所へ何程と問はまて  
 多うと車夫へ定めて意男の所へん一朱あぶ  
 極め起る道元奥力町へ未ぬるに東へ来る老男が車ははと行あり  
 人力車曳へ詫いせんあうと見まて人の居て行くとその其車が  
 一倍おもく成り思不思議なるいさせまて元西役所の毎舎ある  
 餅屋まわつてハコハコ容姿女見ぬへ扱へ狐と心付き箱荷の事や  
 此後よ仕合有るとまう屋町北へ去ぬる車群集の人と  
 おりまけてクワイとの外

よい空をとやあせつりりの車夫と  
 瓶ろりちうろつとやあせつりり

